

# 徳島大学病院 がん診療連携センター

がん診療連携センターホームページの  
紹介をさせていただきます。



信頼される医療を目指して、私たちはより良いがん治療を提供いたします。

徳島大学病院  
がん診療連携センター

TOP

サイトマップ

職員専用ログイン

文字のサイズ

小 中 大



## がん診療連携・相談部門

地域の病院との診療連携推進を行っています。

[この部門を詳しく見る](#)

[センター長のご挨拶](#)

[センター紹介](#)

[標準的治療について](#)

[セカンドオピニオン](#)

[お問い合わせ](#)

### トピックス

[過去のトピックスはこちら](#)

Date	Title
2012年6月27日	▶ 「がん何でもQ&A」に坂本看護師が掲載されました。 <b>New</b>
2012年5月23日	▶ 「がん何でもQ&A」に三木看護師長が掲載されました。
2012年5月1日	▶ 「がん何でもQ&A」に先山科長が掲載されました。



[医療関係者向け情報](#)

[治療に関するご案内](#)

[センターのご利用方法](#)

[部門紹介](#)

[がん診療ガイドライン](#)

### お知らせ

[記事一覧はこちら](#)

Date	Title
2012年5月31日	▶ 「第1回徳島県がん登録研究会」開催のご案内 <b>New</b>
2012年5月23日	▶ 「がん薬剤療法と高度な看護実践」開催のご案内
2012年5月18日	▶ 「がん検診のための徳島市民公開講座『STOP!! がん』」開催のご案内

徳島大学病院は平成22年4月1日に  
都道府県がん診療連携拠点病院に  
指定されました。

当院は  
**がん登録・予後調査**  
を行っています。

### 情報広場

[記事一覧はこちら](#)

Date	Title
2012年6月25日	▶ 「平成24年度 第1回徳島県がん登録研究会」を開催しました。 <b>New</b>

## センター長のご挨拶



がん診療連携センター  
センター長

ふくもり ともはる  
福森 知治

徳島大学病院がん診療連携センターは、がんの診断・治療の実践、がん相談への対応、がん情報の発信を全面的にサポートするセンターとして、平成18年6月1日に開設されました。その後、平成19年4月からの「がん対策基本法」の施行、平成19年6月からの「がん対策推進基本計画」の策定により、がん対策の総合的かつ計画的な推進計画が国から示され、がん治療の長期的な取り組みが全国的に求められるようになりました。このような状況の下で、徳島大学病院は平成22年4月1日から都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受け、県内3ヶ所の地域がん診療連携拠点病院および他の様々な医療機関と連携して、県内のがんの診断・治療の向上のみならず、がん医療の相談支援、情報提供、地域連携および均てん化を図る中心的な役割を果たしています。

本センターは、がん研究・研修部門、がん登録部門、がん診療連携・相談部門、がん診療企画部門、がん化学療法部門、がん緩和・こころのケア部門の6つの部門から構成されています。医師、看護師、薬剤師、技師、心理士、事務職員がそれぞれ高い志の下に連携し、最新の診断・治療機器や高度な治療技術を駆使した横断的な医療の実践のみならず、看護、研究、啓発、情報発信、人材育成まで含めた幅広い分野でがんと闘う組織を整備しています。

現在、国民のおよそ2人に1人ががんに罹患し、3人に1人ががんで亡くなる時代となりました。今後も高齢化の進行に伴い、がん患者はさらに増加すると予想されます。

われわれは、がん患者さんやご家族の視点に立ち、皆様と共にごんと闘っていくつもりです。

### 【センター長 略歴】

1991年 徳島大学医学部医学科卒業  
 1991年 徳島大学病院 研修医  
 1992年 徳島赤十字病院泌尿器科 医員  
 1994年 高知高須病院泌尿器科 医員  
 1999年 徳島大学病院泌尿器科 助手  
 2001年 米国カルマンノス癌センター研究員  
 2003年 徳島大学病院泌尿器科 講師  
 2005年 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 泌尿器科学分野 講師  
 2011年 徳島大学病院がん診療連携センター長

### 【専門分野】

泌尿器科癌、腫瘍分子生物学、前立腺癌小線源治療

# がん診療連携センターでは

- がん診療企画部門
  - がん研究・研修部門
  - がん化学療法部門
  - がん診療連携・相談部門
  - がん登録部門
  - がん緩和・こころのケア部門
- 6つの部門で構成されています。

# がん診療企画部門

## がん診療企画部門

### がん診療企画部門長



#### ★がん診療企画部門長

島田 光生

#### 【役職】消化器・移植外科科長

徳島大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授

#### 【経歴】

九州大学医学部

1984年 九州大学医学部卒業

1984年 九州大学医学部附属病院第二外科研修医

1985年 国立別府病院外科研修医

1986年 九州大学医学部附属病院第二外科医員

1987年 米国Pittsburg大学研究員(肝移植: Starzl TE)

1989年 九州大学医学部附属病院第二外科助手

1993年 国立療養所福岡東病院外科医師

1995年 九州大学医学部附属病院第二外科助手

1997年 九州大学医学部第二外科助手講師

2000年 九州大学医学部附属病院第二外科講師

2002年 九州大学大学院消化器・総合外科助教授

2004年 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部  
消化器・移植外科学教授

#### 【専門分野】

肝臓移植 消化器外科(特に肝胆膵外科) 内視鏡外科(腹腔鏡下肝切除etc.) コンピュータ外科(ナビゲーション)

#### ★がん診療企画副部門長

村尾 和俊

【役職】皮膚科准教授

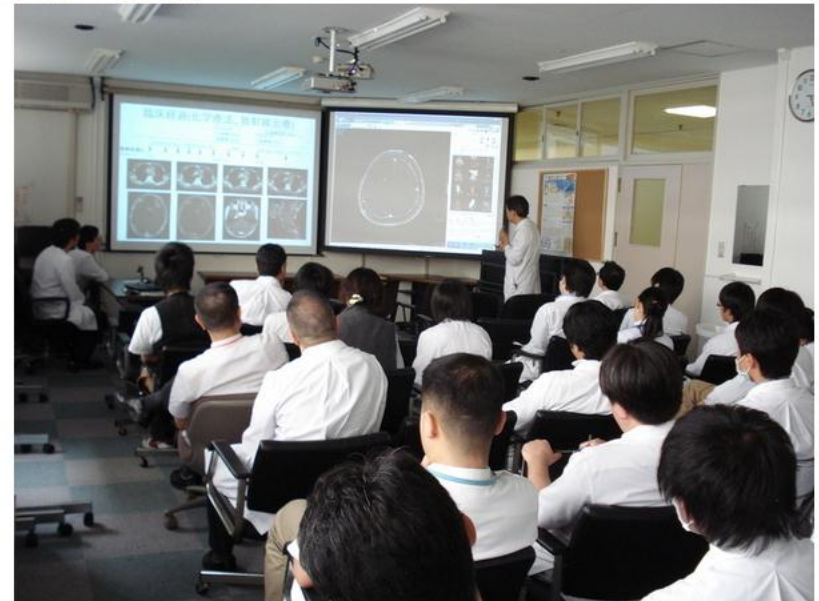
栗田 信浩

【役職】地域外科診療部特任教授

### 活動



がん診療連携センターでは毎月第3月曜日にがん診療における合同カンファレンスを開催しております。このカンファレンスでは臓器別に集学的治療が必要なケースについて関連診療科が中心となって討論し、手術、抗癌剤治療、放射線治療、分子標的治療などによる最適な集学的治療をいかに計画・実践していくかを学ぶことを目的としています。



全体Cancer Boardの様子

# がん研究・研修部門

## がん研究・研修部門

### がん研究・研修部門の紹介



★がん研究・研修部門長

高山 哲治

【役職】消化器内科科長

徳島大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授

【経歴】1986年 札幌医科大学医学部卒業

【専門分野】消化器疾患の診断と治療、癌の化学療法

★がん研究・研修副部門長

先山 正二

【役職】呼吸器外科科長

大学院准教授

木田 菊恵

【役職】看護部長

高松 典通

【役職】診療支援部長

### 活動



都市部や遠隔地での研修や指導の際には、専門研修医や指導医に病院宿舎の提供や賃貸物件の週・月単位での借り上げとその提供、あるいは旅費支給を行います。キャリア形成支援担当部門は大学院教育組織と連携し、大学院での研究と専門臨床研修の両立も可能となっています。



院内研修

# がん化学療法部門

## がん化学療法部門

### がん化学療法部門の紹介



★がん化学療法部門長  
丹黒 章

【役職】食道・乳腺・甲状腺外科科長  
徳島大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授

#### 【経歴】

1981年 徳島大学医学部医学科卒業  
1981年 山口大学医学部医員(研修医)  
1986年 山口大学医学部助手  
1989年 米国アーカンソー州立大学研究員  
1991年 山口大学医学部助手  
1996年 山口大学医学部講師  
1998年 山口大学医学部助教授  
2004年 徳島大学大学院教授

#### 【専門分野】

食道外科, 乳腺・甲状腺外科, 内視鏡手術

### ★がん化学療法副部門長

柿内 聡司

【役職】徳島大学院ヘルスバイオサイエンス研究部  
腫瘍内科学分野准教授

中村 敏己

【役職】薬品安全対策室長

三木 幸代

【役職】外来科学療法室 看護師長

### 外来化学療法室の紹介



抗がん剤の副作用に対する補助療法の進歩や外来化学療法体制の充実などにより、従来入院で行われていた化学療法が外来通院でも安全に、より自由度が高く、安心してできるようになりました。現在、外来化学療法室では、月曜日から金曜日の週5日、毎月約400の患者様が化学療法を受けられています。部屋には18台のリクライニングチェアがあり、音楽を聴きながらあるいはテレビをご覧になりながら快適に治療を受けていただけます。抗がん剤治療に関して経験豊富な医師、専任薬剤師、またがん化学療法看護認定看護師などが協力して、患者様が自宅での生活や普段の社会生活を送りながら、快適に安心してより良い医療を受けることができるよう支援しています。また、化学療法が安全におこなわれるように患者様の状態に注意を払い、今受けておられる治療についての説明と、日常生活上の留意点のご説明やご相談に応じています。



# がん診療連携・相談部門

## がん診療連携・相談部門

### がん診療連携・相談部門の紹介



★がん診療連携・相談部門長  
金山 博臣

【役職】泌尿器科長  
徳島大学ヘルスバイオサイエンス研究部教授

【経歴】  
1982.3 徳島大学医学部医学科卒業  
1992.9 医学博士(徳島大学)  
1994.4 徳島大学医学部附属病院講師  
1996.3 徳島大学病院医学部泌尿器科 助教授  
2004.4 徳島大学大学院HBS研究部泌尿器科学 教授

【専門分野】  
泌尿器科学、腫瘍分子生物学、体腔鏡下手術  
日本泌尿器科学会指導医、専門医  
日本透析医学会指導医、認定医  
泌尿器腹腔鏡技術認定医  
日本がん治療暫定教育医  
がん治療認定医  
内視鏡外科学会技術認定医

★がん診療連携・相談副部門長

埴淵 昌毅  
【役職】呼吸器・膠原病内科准教授

久米 博子  
【役職】副看護部長

### がん診療連携・相談部門



がん診療連携・相談部門では、徳島県がん診療連携協議会や拠点病院と連携し、がん診療に携わる医療機関の医療機能の分化や連携、地域連携クリティカルパスの活用に向けて、主導的な役割を果たしています。  
また、その他にも地域の病院との診療連携推進、患者の療養上に関する相談の対応をしています。



徳島大学病院がん診療連携セミナー



# がん登録部門

## がん登録部門

### がん登録部門の紹介



★がん登録部門長  
有澤 孝吉

【役職】  
徳島大学院ヘルスバイオサイエンス研究部  
予防医学分野教授

★がん登録副部門長

岡久 稔也  
【役職】消化器内科講師

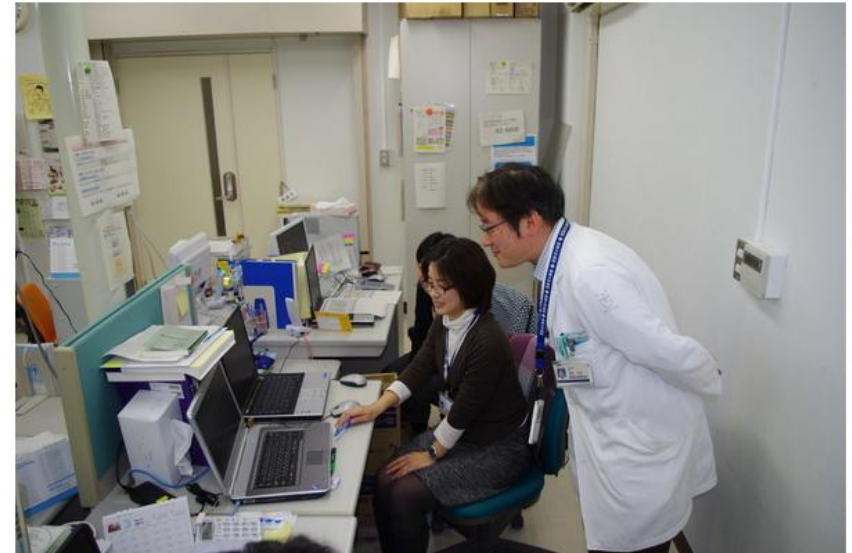
影治 照喜  
【役職】地域脳神経外科診療部特任教授

### がん登録部門



がん登録部門では、がん診療連携拠点病院として、入院・外来を問わず、がんに対して初診・診断・治療の対象となった患者様の症例を国立がんセンターが定めた、「がん診療連携拠点病院 院内がん登録標準登録様式」に従って院内がん登録を実施しています。

登録された患者様のデータは、当院及び国立がんセンターや都道府県が実施する地域がん登録施設で利用され、がん診療の実態(がん罹患・生存状況等)全国・地域・自施設の各種レベルで、把握・分析することに役立っています。



# がん緩和・こころのケア部門

## がん緩和・こころのケア部門

### がん緩和・こころのケア部門の紹介



★がん緩和・こころのケア部門長  
大森 哲郎

【役職】精神科神経科科長  
徳島大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授

【経歴】北海道大学医学部を1981年度に卒業し、市立札幌病院、市立室蘭病院、米国ケースウエスタン大学、北海道大学病院などを経て、1999年に徳島大学へ着任しました。

【専門分野】精神疾患と心身症全般を診療範囲としていますが、特にうつ病、躁うつ病、統合失調症の診断と治療が専門です。薬物療法だけでなく心理社会的治療法をも重視しています

★がん緩和・こころのケア副部門長

近藤 和也  
【役職】徳島大学院ヘルスバイオサイエンス研究部  
臨床腫瘍医学学分野教授  
がん診療連携センター副センター長

伊賀 淳一  
【役職】精神科神経科 講師

武知 浩和  
【役職】食道・乳腺甲状腺外科助教

### がんサロン



【がんサロン】  
第2・第4水曜日15:00～西病棟ウェルカにて開催

【コスモス会】※現在休会中  
毎月第4水曜日14:00～食と健康増進センターにて開催

【がん患者教室】  
不定期の開催ですが、当院に入院・通院中の患者の方を対象に医師・栄養士・看護師・医療ソーシャルワーカー・臨床心理士らスタッフと語り合う場を設けています。  
★医師による病気や治療法の話  
★栄養士による栄養と食事についての話  
★医療ソーシャルワーカー・心理士による話

### がん患者教室



【がん患者教室について】

がん緩和・こころのケア部門では、がん患者様・患者家族様の方を対象に年に数回、テーマを決めて「肺がん患者教室」「婦人科がん患者教室」「乳がん患者教室」「前立腺がん患者教室」「化学療法がん患者教室」など開催しております。

当日は、医師・看護師・栄養士・心理士・医療ソーシャルワーカーなどからのお話、また参加者からのご質問などにお答えしております。日頃、診察や入院中に聞けなかったこと、病気のこと、栄養のこと、医療費のこと、心の悩みなど、多職種が対応しております。ぜひ、開催時にはご参加下さい。

★開催日時 随時がん診療連携センターホームページにて掲載いたします。

### 患者教室の様子



# がんの標準的治療についても掲載しています

信頼される医療を目指して、私たちはより良いがん治療を提供いたします。



徳島大学病院  
がん診療連携センター

→ TOP

→ サイトマップ

→ 職員専用ログイン

文字のサイズ



センター長のご挨拶

センター紹介

標準的治療について

セカンドオピニオン

お問い合わせ

## 標準的治療について

肺がん

胃がん

大腸がん

肝がん

乳がん

胆嚢・胆管がん

痔がん

卵巣がん・子宮がん

骨・軟部腫瘍

脳腫瘍

口腔がん

耳鼻咽喉科

形成外科

皮膚科

泌尿器

小児がん

## 肺癌の診断と治療

### 【肺癌の診断】

#### → 蛍光気管視鏡

青色励起光が上皮下層に達すると、自家蛍光が発生します。

蛍光観察とは、その自家蛍光を画像化することで、従来の内視鏡観察では発見・診断が難しい早期肺癌や前癌病変を、蛍光の強度あるいは色調の違いとして表示し、病変部の発見・診断を容易にするものです。

当科では現在AFI (Auto Fluorescence Imaging) (OLYMPUS社製)による蛍光観察を施行しています。

AFIは青色励起光だけでなく、血中に含まれるヘモグロビンに影響を受けやすい緑色の反射光を用いることで、血液が豊富な部位や出血、血管と腫瘍性病変の識別能力の向上が期待できる利点を備えています。正常組織はグリーン、粘膜の肥厚などにより蛍光の減弱した腫瘍性病変はマゼンダと従来の蛍光観察装置と比べ最も視認性の高い色調による蛍光観察画像が得られます。

- ① 中心型早期肺癌の発見。
- ② 手術前の切除線の決定。
- ③ レーザー治療におけるより正確な浸潤範囲の評価→有効な照射野の決定。
- ④ 精度の高い治療効果判定、を目的として使用しています。

#### → 細径気管視鏡

気管視鏡は挿入部径、鉗子チャンネル径、画質により観察用、処置用、細径気管視鏡に分けられています。

観察用は画質を最優先にした気管支鏡で、2mm未満の鉗子チャンネル径、6mm前後の挿入部径をもっていきます。

処置用は6mm前後の挿入部径に2.6mm以上の太い鉗子チャンネル径をもっていきます。細径気管視鏡は末梢病変、気道狭窄時、小児への使用などのために5mm前後からそれ以下の挿入部径をもっていきます。当科では外径2.8mm 鉗子チャンネル径1.2mmのものを使用しています。細径気管視鏡の用途として、当科では主に、CTガイド下での気管視鏡生検やCTガイド下でのコイルマーキングに汎用しており、末梢肺野病変へのアプローチを良好なものとしています。

#### → 超音波気管支鏡(図1,2)

# セカンドオピニオン医師の紹介も クリックで詳しく見れます。

信頼される医療を目指して、私たちはより良いがん治療を提供いたします。



徳島大学病院  
がん診療連携センター

→ TOP

→ サイトマップ

→ 職員専用ログイン

文字のサイズ  
小 中 大

センター長のご挨拶

センター紹介

標準的治療について

セカンドオピニオン

お問い合わせ

## セカンドオピニオン

### がん診療連携センターとは



「第2の意見」というべきもので、診断や治療について 担当医師以外の医師の意見を聞くこととなります。がんの診断・治療は、生命にかかわる重大な判断が必要で、担当医師がどれほどの技量と知識を持っているのか、一般的には分からないので、専門医に相談したいと思うのは当然のことです。日本では担当医に失礼になるのではと思われるかもしれませんが、これは当然の権利で、セカンドオピニオンを求められて不機嫌になるような医師にかかるのはやめた方がよいでしょう。また、実際の診療では治療法として、誰が考えてもこれしかないという場合もありますが、専門医でも判断が難しい場合も多々あります。このような場合に他の専門医の意見を聞くことは 大変役に立ちます。本院では、その分野の専門家を「セカンドオピニオン担当医師」として配置しておりますので、お会いに活用して頂ければ幸いです。

#### ▶ セカンドオピニオン外来のお申込

→ **がんチーム徳大**  
15,750円/1時間

### セカンドオピニオン

└ 脳・神経・目

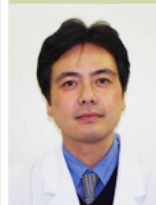
└ 胸部

└ 女性

└ 泌尿器



### セカンドオピニオン担当医師紹介



診療科：皮膚科

村尾 和俊医師

Kazutoshi Muroa

むらお かずとし

#### ▶ 経歴・資格・専門分野

◇経歴◇

平成 6年 3月 徳島大学医学部附卒業  
平成 6年 6月 徳島大学医学部附属病院医員(研修医)(皮膚科)  
平成 7年 6月 愛媛県立中央病院医師(皮膚科)  
平成10年 8月 徳島大学医学部附属病院医員(皮膚科)

### セカンドオピニオン担当医師紹介



診療科：放射線科

生島 仁史医師

Hitoshi Ikushima

いくしま ひとし

#### ▶ 経歴・資格・専門分野

徳島大学大学院教授放射線治療技術科学分野  
徳島大学病院がん診療連携センター副センター長  
徳島大学病院放射線治療科科長

◇経歴◇

1988年 香川医科大学医学部医学科卒  
1988年 徳島大学放射線科研修医  
1993年 九州大学医学部附属病院放射線科医員

# 新聞等で掲載された記事もトピックスとして掲載しております

**質問**  
58歳の父が、胃が重く内服で検査を受けたところ、腸がんが早期と診断されました。手術で切除した後に治療法を行って、医師から説明を受けましたが、治療に伴う痛みが心配です。緩和ケアを検討しましたが、痛みはまだないし、緩和ケアを受ける時期でもないと思うのですが、どうすればいいですか。

## がん何でもQ&A

**答え** 緩和ケアは、がん患者の心身の苦痛を和らげ、生活の質を向上させる大切な考え方です。現状は緩和ケアを受ける必要はないか迷われる方もおられますが、これからの治療の考え方としては「がん治療」と同時に「緩和ケア」の両方を向けていくことが大切です。患者の「療養生活の質」も「がん治療」の重要な要素と捉えらるべきです。



徳島大学病院緩和ケア看護部長 松本 佳代

## 痛みなくとも緩和ケア受けるべきか

身体的・精神的・社会的・スピリチュアル(霊的)な苦痛についていかに緩和し、患者と家族の生活を共に支える緩和ケアの考え方を、時期から取り入れていくことで、がん患者と家族の療養生活の質をよりよくなることを目指しています。緩和ケアは、緩和ケアを取り入れた方が生活の質が向上し、生きている間に「痛みなくとも緩和ケアを受けるべきか」という問いが湧いてきます。また、がんは身体的な痛みだけではなく、精神的苦痛も伴うことが多くあります。痛みなくとも緩和ケアを受けるべきかという問いは、緩和ケアを受けるべきかという問いと深く関係しています。痛みなくとも緩和ケアを受けるべきかという問いは、緩和ケアを受けるべきかという問いと深く関係しています。

痛みを伝える時の大切な点(一例)

時期	痛みは1日中あるか、たいへん良いけど時々痛くなるのか
場所	どこが痛いか、1か所か広範囲か、痛み場所はいつも同じか
感じ方	鋭い痛みか鈍い痛みか、ビリビリ、ジンジン、キリキリ、しめつけられる感じ
日常生活への影響	トイレや入浴の時にふらふら、眠れない、食べられない、身体が動かせないのが困る、座っているのもつらい、何も手につかない
痛みの程度	イメージでできる最も強い痛みを10点、余る痛みはない状態を0点とすると、今回の痛みは何点くらいか
痛み止めの効果	途中で切れる、全休に少し和らいだ、ほとんど効果を感じない

## 治療早期から取り入れて

治療早期から緩和ケアを取り入れることで、痛みなくとも緩和ケアを受けるべきかという問いは、緩和ケアを受けるべきかという問いと深く関係しています。痛みなくとも緩和ケアを受けるべきかという問いは、緩和ケアを受けるべきかという問いと深く関係しています。

## がん何でもQ&A

**答え** 抗がん剤治療に伴う吐き気や嘔吐は、抗がん剤が腸(腸)にある腸管刺激作用(嘔吐)を引き起こすため、吐き気や嘔吐の程度は、かなり個人差があります。抗がん剤の種類や組み合わせによっても違ってきます。



徳島大学病院外来 化学療法室看護部長 三木 幸代

## 抗がん剤での吐き気が心配

強くなるのではないかと心配しています。吐き気は治療中ずっと続くのでしょうか。自己での対策はありますか。

治療後から24時間以内に起こる「急性嘔吐」は、抗がん剤の副作用で最も多く、日中程度続く「慢性嘔吐」は吐き気や嘔吐の不安や恐怖の原因となる「予備嘔吐」の3つのタイプがあります。予備嘔吐は、過剰な抗がん剤治療を受ける患者に多く見られます。吐き気や嘔吐は、腸管刺激作用(嘔吐)を引き起こすため、吐き気や嘔吐の程度は、かなり個人差があります。抗がん剤の種類や組み合わせによっても違ってきます。

### 吐き気や嘔吐を起こしやすい人

- ・女性
- ・50歳以下
- ・アルコールの常用なし
- ・乗り物酔いしやすい
- ・妊娠中つわりがひどかった
- ・副作用への不安が強い
- ・生活での活動量が少ない
- ・治療前に多量飲んでいる
- ・治療前の睡眠が少なく
- ・前治療で吐き気・嘔吐がひどかった

## 適切な対策で症状軽減

吐き気や嘔吐の症状の現れ方として、抗がん剤治療の開始後から24時間以内に起こる「急性嘔吐」は、抗がん剤の副作用で最も多く、日中程度続く「慢性嘔吐」は吐き気や嘔吐の不安や恐怖の原因となる「予備嘔吐」の3つのタイプがあります。予備嘔吐は、過剰な抗がん剤治療を受ける患者に多く見られます。吐き気や嘔吐は、腸管刺激作用(嘔吐)を引き起こすため、吐き気や嘔吐の程度は、かなり個人差があります。抗がん剤の種類や組み合わせによっても違ってきます。

# がんサロンに参加してみませんか

## がんサロン



### 【がんサロン】

第2・第4水曜日 15:00～西病棟ウェルカにて開催

### 【コスモス会】※現在休会中

毎月第4水曜日 14:00～食と健康増進センターにて開催

### 【がん患者教室】

不定期の開催ですが、当院に入院・通院中の患者の方を対象に医師・栄養士・看護師・医療ソーシャルワーカー・臨床心理士らスタッフと語り合う場を設けています。

★医師による病気や治療法の話

★栄養士による栄養と食事についての話

★医療ソーシャルワーカー・心理士による話

がんサロンとは・・・がん患者さんやそのご家族などが集まることのできる空間です。日頃、心に抱えているものを少しおろして、安心して過ごせる場所ですのでご自由にご参加下さい。

# がん患者教室を開催します

## 内容

- 医師から、がんの病気や治療について
- 看護師から、治療に関する副作用について
- 薬剤師から、薬の副作用について
- 管理栄養士から、食事や栄養について
- 歯科衛生士から、口腔ケアについて
- 認定看護師から、緩和ケア(身体的痛み)について
- 社会福祉士から、医療費などについて
- 臨床心理士から、心の悩みや相談について

詳しくは各外来・外来化学療法室の掲示板をご覧ください。

ぜひ、パソコンで検索して下さい

# 徳島大学病院 がん診療連携センター

検索



ウェブ | 画像 | 動画 | 辞書 | 知恵袋 | 地図 | リアルタイム | 一覧 ▾

徳島大学病院がん診療連携センター

検索



# がんに関する相談

不安や心配ごとを一人で抱えず、  
まずはご相談下さい。

## 徳島がん対策センター

がん患者相談窓口(電話)

**088-633-9438**

相談時間 午前8時30分～午後5時まで

相談窓口は徳島大学病院地域医療連携センターへ